

屋久島生態系モニタリング

屋久島観光の歴史一下

1974年から88年までは、入島者はほぼ10万人台で推移しているが、89年度以降は、89年度が171千人、90年度が221千人、91年度が242千人と急増している。

この増加の理由は、①バブル時代の先行立定、②自然遺産登録の推進、③観光客の増加、④自然環境の整備、⑤自然遺産登録の推進、⑥自然環境の整備、⑦自然遺産登録の推進、⑧自然環境の整備、⑨自然遺産登録の推進、⑩自然環境の整備、⑪自然遺産登録の推進、⑫自然環境の整備、⑬自然遺産登録の推進、⑭自然環境の整備、⑮自然遺産登録の推進、⑯自然環境の整備、⑰自然遺産登録の推進、⑱自然環境の整備、⑲自然遺産登録の推進、⑳自然環境の整備、㉑自然遺産登録の推進、㉒自然環境の整備、㉓自然遺産登録の推進、㉔自然環境の整備、㉕自然遺産登録の推進、㉖自然環境の整備、㉗自然遺産登録の推進、㉘自然環境の整備、㉙自然遺産登録の推進、㉚自然環境の整備、㉛自然遺産登録の推進、㉜自然環境の整備、㉝自然遺産登録の推進、㉞自然環境の整備、㉟自然遺産登録の推進、㊱自然環境の整備、㊲自然遺産登録の推進、㊳自然環境の整備、㊴自然遺産登録の推進、㊵自然環境の整備、㊶自然遺産登録の推進、㊷自然環境の整備、㊸自然遺産登録の推進、㊹自然環境の整備、㊺自然遺産登録の推進、㊻自然環境の整備、㊼自然遺産登録の推進、㊽自然環境の整備、㊾自然遺産登録の推進、㊿自然環境の整備、

四月二十二日、小杉谷周辺において、島内の小学生とその保護者や一般参加者約四十名にスタッフなどを加えて、自然観察会を開催しました。今回の自然観察会は、平成十二年度のバツファーンゾーン整備事業において整備された自然観察路や小杉谷休憩舎な森林環境教育のための各種施設を巡り、森林の仕組みや働きを学び、より深く自然に親しんでもらうことを目的に行われました。



白谷雲水峽を出発した時は曇天だったものの、後は終日晴れ直り、絶好の天気恵まれました。

太鼓岩からは、奥岳から小瀬田、宮之浦の海を見渡すことができ、最高の景色に参加者

小杉谷周辺で自然観察会

☆十二年度バツファーンゾーン整備事業 実施箇所を巡る☆

島内から募った小学生とその保護者などで、自然観察会やネイチャーゲームを行い、楽しい一日を過ごしました。

一同感激していました。途中の白谷小屋や小杉谷周辺では屋久島野生植物研究所の大山主幸などによる屋久島の植物と照葉樹林の説明や森林の果たす機能や恩恵についての説明があり、参加した小学生はもとより、大人にとっても大変興味深い内容のものでした。

小杉谷小学校跡では、指導員の伊藤さんによるネイチャーゲームが行われ大人も童心に帰り楽しい時間を過ごしました。

今回の自然観察会で、多くの方々に森林の大切さや楽しみ方を知っていただくことができ、参加者・スタッフ共々実り多き若葉の春の一日となりました。

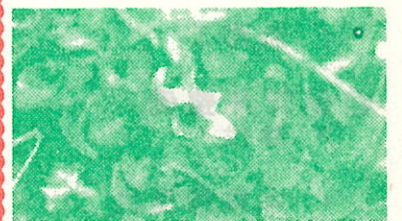
平成十三年度 第一回山岳部利用対策協議会開催

四月二十日十三時から今年度第一回の協議会が開催されました。

今回は、GWの登山者指導のあり方について話し合い、例年と同じく縄文杉と荒川登山口で指導に当たることを申し合わせました。

荒川登山口での駐車場の整理は、登山者指導とは切り離すべき等の意見もありました。が、駐車場が十分でない現実を踏まえれば、整理をしない

屋久島の植物



コケスミレ すみれ科

ツボスミレが極めて小型化したもので、屋久島の高層湿原だけにある。

葉は三角状扁心形で、低い鋸歯がある。幅三〜七mmで、硬くて光沢がある。

花は白色に紫色のすじが入る。花弁の長さ四〜五mm、四月〜五月に咲く。

第十三回 屋久島世界遺産地域連絡会議

四月二十四日鹿児島市で開催されました。

今回は、平成十三年度の事業について各機関それぞれ説明を受けての調整を行いました。

特に、花之江河と小花之江河の保全対策については、鹿

島県と当保全センターの両方で予定していることから、昨年度当保全センターで実施した生態系モニタリング調査報告書を踏まえて、十分な連絡調整を以て実施することとなりました。

また、本会議前の幹事会の必要性や現在会議を非公開で実施していることについて、今後検討することとしました。

次回は、今年の秋頃開催する予定です。

お知らせ

保全センターの動き

☆五月一日付け
転出 所員 濱田巧
(屋久島森林管理署へ)
転入 所員 近藤昭夫
(九州森林管理局から)

屋久島森林環境保全センター 平成13年度 業務予定

◆ 森林生態系保護

◎ 世界自然遺産保全緊急対策（平成8年度～）

ア 生態系モニタリング調査：入り込み者の状況調査及び生態系の変化に関する調査

イ 植生回復措置：入り込み者の踏み荒らし等により、植生が破壊された箇所における植生の回復・維持に必要な措置

ウ 屋久スギ樹勢回復措置：屋久スギの樹勢診断及びその診断に基づく樹勢の回復・維持に必要な措置



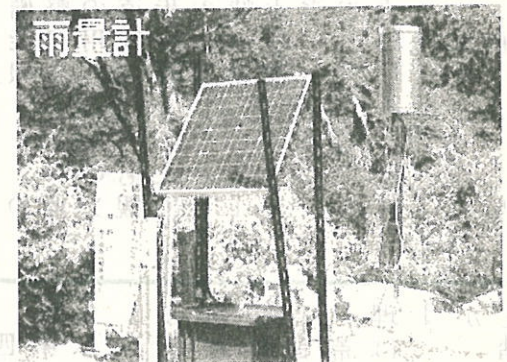
（縄文杉樹勢回復措置 実施状況）

◎ モニタリング調査

ア 写真映像によるモニタリング
著名屋久スギ・高層湿原・代表的な森林等に定点を設け継続的に写真撮影を行い映像による長期モニタリングを実施する。

イ 雨量観測
国有林の要所において雨量等の森林気象を観測し、永続的なデータを保存することにより、貴重な森林の保全と山地災害防止に資することを目的に実施する。

ウ 水源森林の水質調査
屋久島の森林生態に深く関与する水質について調査を行い土壌地質との関わり等についての基礎資料とする。
林外雨：6箇所
渓流水：8箇所



（大川林道 雨量計標高1,020m）

◎ ヤクタネゴヨウの保護増殖事業

ヤクタネゴヨウは、屋久島に3地域1,000～1,500個体、種子島に孤立状態で約100個体生育する日本の固有種で、環境省レッドデータブック「絶滅危惧種ⅠB類」にランクされた希少種である。この様な状況に対処するため、（社）ゴルファーの緑化推進協会の協賛を得て、ヤクタネゴヨウの復元・増殖事業を実施する。

◆ 治山事業

◎ 復旧治山

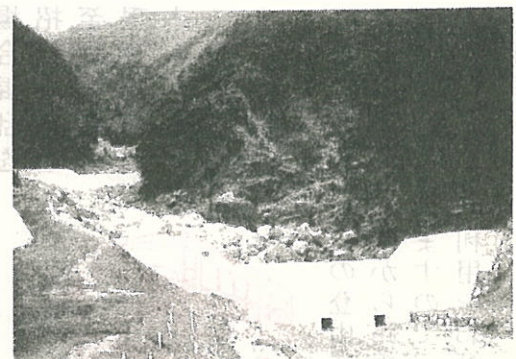
ア コンクリート谷止工：経常 4基（前年度からの明許繰越）
経常 5基

イ 流路工：経常 1基

◎ 保安林整備

ア 除伐：11.94ha（前年度からの明許繰越）

イ 本数調整伐：42.91ha（前年度からの明許繰越）



（永田地区 土面川谷止工）

◆ 森林教育・森林空間利用等

◎ 森林教室等の実施

◎ 森林環境整備推進協力金による屋久島自然休養林の整備等

◎ 広報「洋上アルプス」の発行及び年報（平成12年度）の作成

◎ 山岳部利用対策協議会への参加と関係機関との連携強化

◎ 資料室の整備・拡充

◎ 世界遺産地域等の森林パトロールの実施



（森林教室 身近な巨木巡り）